

秦野市都市農業振興計画案に対するパブリックコメントの実施結果について

1 意見募集期間

令和3年2月17日（水）から同年3月18日（木）まで

2 意見募集の周知方法

広報はだの2月15日号及び市ホームページ

3 構想案の公表方法

- (1) ホームページへの掲載
- (2) 公民館、図書館及び駅連絡所における閲覧
- (3) 本庁舎行政情報閲覧コーナーにおける閲覧
- (4) 農業振興課における閲覧

4 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール及び持参の方法による

5 提出された意見の内容及びその取扱い等

内容分類	件数	意見への対応区分（※）				
		A	B	C	D	E
第1章 はじめに	1	0	0	0	1	0
第2章 現状と課題	17	8	3	1	4	1
第3章 秦野市の将来像	2	0	1	0	1	0
第4章 施策の展開	19	2	5	9	0	3
第5章 重点施策・事業	6	1	0	3	1	1
その他全般	6	1	0	4	0	1
計	51	12	9	17	7	6

※ 意見への対応区分

- A：意見等の趣旨等を構想に反映したもの
- B：意見等の趣旨等は既に構想に反映されていると考えるもの
- C：今後の取組みにおいて参考とさせていただくもの
- D：構想に反映できないもの
- E：その他（感想、質問等）

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
1	第1章 1ページ	農業を取り巻く情勢が大変厳しい状況が分からないため次のとおり修正してはどうか。 旧:「近年、農業を取り巻く情勢は大変厳しく、農業者の高齢化や後継者不足はもとより、毎年のように頻発する自然災害・・・」 新:「近年、農業者の高齢化や後継者不足をはじめとする、農業を取り巻く情勢は大変厳しい状況に加えて、毎年のように頻発する自然災害・・・」	D	先に厳しい状況であることを述べた上で、その理由を後に述べています。
2	第2章 4ページ	「人口の少子高齢化」という表現に違和感があるため「少子高齢化などの影響により」に修正してはどうか。	A	いただいた御意見のとおり修正しました。
3	第2章 4ページ	「少子高齢化の進展」という表現に違和感があるため「少子高齢化の進行」に修正してはどうか。	A	いただいた御意見のとおり修正しました。
4	第2章 5ページ	表2-1 総人口及び年齢3区分人口割合について、「はだの2030プラン秦野市新総合計画案」と割合の数値が異なるため統一すべきである。	A	いただいた御意見のとおり修正しました。
5	第2章 6ページ	現状の項目としてア～オまで記載しているが、市民に対する本市の農業関係における認知度も記載すべきであるため、webアンケート結果なども記載すべきである。	B	地産地消に関するwebアンケート結果についてP.19～20に記載しています。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
6	第2章 6ページ	児童生徒等に対する教育活動の実施状況も記載すべきである。 他にも市内外の広報活動なども記載すべきである。	A	児童生徒及び広報活動に関する記載をP.11 オ 市民交流に追記しました。
7	第2章 6ページ	文の前後において、全国に関する文章が記載されていないため、次のとおり修正してはどうか。 旧:「しかし、全国的な傾向でもある担い手不足の問題は、本市においてもその傾向が現れています。」 新:「しかし、近年では担い手不足の問題を抱えており、全国でもその傾向にあります。」	D	次の文章が市の取り組みについての記述であることからこのままの表記とします。
8	第2章 6ページ	表2-2 農家戸数、農業就業人口の推移について、令和2年の数値は記載しないのか。	E	計画案に対する意見募集概要に記載のとおり、統計資料については、現在国が令和2年版の数値の取りまとめをしているため、確定値の公表後に反映させる予定となっています。
9	第2章 12ページ	「露地野菜」と「普通作」とはどのような意味か。ページ下に注釈が必要である。 また、「露地野菜」にふりがなを設けたほうが読みやすい。	A	「露地野菜」はハウスなどは使わず露天の畑で栽培された野菜のことで、「普通作」は稲作・小麦・大豆をまとめた呼び方となります。 普通作については注釈を加えますが、露地野菜については、注釈及びふりがなは不要であると考えます。
10	第2章 15ページ～ 20ページ	アンケート結果の文章について、一文が長いと途中で区切ったほうが見やすくなる。	A	いただいた御意見のとおり修正しました。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
11	第2章 19ページ	青年就農希望者がどの程度いるか示すべきである。	D	実際の就農者数については把握できますが、希望者については把握できません。
12	第2章 20ページ	「はだの2030プラン秦野市新総合計画案」に記載されている中学校給食における地元の農産物の活用について検討及び実施する旨を本計画でも記載する必要がある。	B	該当ページはアンケート調査結果に基づく記載をしており、中学校給食についてはP.23及び主な施策・事業において掲載しています。
13	第2章 21ページ	前計画の計画期間が平成28年度から令和2年度までとしている中で、現状値を令和元年度末としているが、現在から約1年前の数値だと時間的に乖離が生じていると感じるため、なるべく最近の時点（令和3年2月等）にしたほうがよい。もしくは令和3年3月（推計）とするべきである。	D	確定している直近の数値を使用するため令和元年度末の数値としています。
14	第2章 21ページ	表2-19 農用地利用権設定面積の評価が横ばいとなっているが上昇ではないか。	A	評価基準の注釈を追記します。
15	第2章 21ページ	評価にて「目標達成」と「上昇」が上向き矢印でわかりづらいため「目標達成」は○にするなど別の表記にするべき。	D	ページ下部に凡例を記載しています。
16	第2章 22ページ	「今後も引き続き、農業後継者や青年就農者、定年帰農者や法人などの農業参画を推進し・・・」とあるが、例えば県内の高校や大学の農学部などの生徒を対象に、体験授業の場として積極的に参加してもらうとともに、併せて秦野の農業施策に協力・理解してもらい、青年就農者になってもらうような取り組みを進めたらどうか。	C	いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
17	第2章 22ページ	「農地の保全と多面的機能の活用」において、秦野市鳥獣被害防止計画と整合を図りつつ施策を展開する旨の記載が必要である。	A	秦野市鳥獣被害防止計画は本計画を上位計画とする計画であることから、本計画では整合を図る旨の記載はいたしません。2ページの計画の位置付けに鳥獣被害防止計画を追記します。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
18	第2章 23ページ	エ 地産地消の推進と販売力の強化 「…令和3年12月には中学校完全給食が開始されます。」とあるが、この文もしくはその後の文で秦野の農産物等を消費してもらうような取り組みの検討や実施などの旨の記載をすべきである。	B	「このため」以降で今後の取り組みについて記載しています。
19	第3章 25ページ	秦野の将来像について、次のとおり修正してはどうか。 旧:「…それは、市民の積極的な関わりと応援がなければ実現しません。」 新:「…そのためには、市民・関係団体・行政が関わりをもつことが大切です。」 旧だと「応援」という表記から市民が主体ではないように読み取れる。三者が関わりを持つことで進められる事業であると思う。	B	生産活動への参画など市民が主体的に農業に関わる側面と、消費者として地場産物を購入することで農業者を応援する側面を記載しています。
20	第3章 25ページ	秦野の将来像について、次のとおり修正してはどうか。 旧:「…一方で、農業がもたらす豊かな恵みは、ひいては、市民に安心して豊かな暮らしをもたらします。」 新:「…また、農業がもたらす豊かな恵みは、市民に安心して豊かな暮らしをもたらします。」	D	当表現については、市民の豊かな暮らしにつながることを強調するためのものであることから現状の表記とします。
21	第4章 34ページ	基本施策にて秦野市鳥獣被害防止計画と整合を図る旨を記載すべきである。もしくはP26の構成図やP27の体系図に記載するとともに、本計画や各事業との関連性を明確にすべきである。	A	鳥獣被害防止計画については本計画を上位計画とする計画であることから、本計画では整合を図る旨の記載はいたしません。2ページの計画の位置付けに鳥獣被害防止計画を追記します。 また、各行政計画との関連性については、関連事業が多いため記載はしないものとします。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
22	第4章 34ページ	<p>★●鳥獣被害対策重点取組地域におけるUAV(ドローン)を活用した地域ぐるみの対策の実施とあるが、各メディアからの報道により、今後航空法の改正により、飛行方法などなどによってUAVの機体認証や操縦ライセンスが必要となるルールになるとされています。</p> <p>そうすると今まではUAVの飛行は伊庭のルールに則り、一定の知識と技術があれば誰でも簡単に操縦できましたが、従来と違い規制が厳しくなり、より高度な知識と操縦技術が必要になるが、それに向けた体制整備も進めるべき。</p>	C	各種法令等に則った運用となるよう実施して参ります。
23	第4章 39ページ	<p>涵養にふりがなを併記したほうがよい。</p>	A	「かん養」に表記を修正しました。
24	第4章 46ページ	<p>体験型農業の拡充(重点施策・事業) 「はだの2030プラン秦野市新総合計画案」に記載されている「上地区いなか暮らし体験ツアー」は該当しないのか。</p>	E	<p>農園ハイクは「上地区いなか暮らし体験ツアー」のメニューの1つとなっていますが、「上地区いなか暮らし体験ツアー」自体は生き物などのふれあいがメインとなるため当計画には記載していません。</p>
25	第4章 49ページ	<p>交流事業の展開、食農情報の発信 「畜産まつり・農業まつり・農産物品評会等の各種イベントの推進」とあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント開催の自粛を余儀なくされていると思うが、今後新型コロナウイルスだけでなく、新たなウイルス感染の影響で開催できなかった場合の方法を検討すべきである。</p>	C	<p>いただいた御意見を関連部署に情報提供するとともに、今後の参考にさせていただきます。</p>
26	第2章 第4章	<p>アンケート結果にも出ているが鳥獣被害は非常に深刻な問題であるため、徹底的に取り組んでいただきたいと思っております。</p>	B	<p>鳥獣被害対策については、喫緊の課題であると認識しており、基本施策として位置付けを改めたところではあります。</p> <p>また、あわせて、鳥獣被害対策についての個別の計画を定める予定であり、関係団体と連携し対策に取り組んで参ります。</p>
27	第4章	<p>6次産業化は規格外品となったものも活用できるため特産振興と合わせて進めていただきたい。</p>	B	<p>秦野市農協など関係機関と連携し推進して参ります。</p>

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
28	第4章	学校給食について、契約栽培など農家がやりがいを持てるような仕組みにさせていただきたい。 また、給食ではほとんど牛乳が出ているが、秦野にはおいしいお茶もあるため食育という面で取り入れられないか。	C	給食関係課に情報提供するとともに、目標達成を目指す中で農業者が意欲的に取り組めるよう他市、他県等の事例を参考にしながら制度確立に向け取り組んで参ります。
29	第4章	計画内で施設園芸に関する記載がないが、支援等はどのように考えているのか。	B	本計画では品目ごとの支援策は示しておりませんが、経営の安定化という部分で様々な農業者の支援をしていくこととしております。 特に施設は経営の安定化につながることから、施設化に対する支援について検討して参ります。
30	第4章	P34で鳥獣の「棲みか」という漢字が使われているが、「住みか」ではないのか。	E	「住」は定住するという意味合いと捉えており、鳥獣の生息地は一定ではないことから「棲」という表記としております。
31	第4章	鳥獣被害について、捕獲一辺倒では処理に限界がある。ジビエもハードルが高いため、課題を整理したうえで進めてほしい。	B	先進事例を参考に整理したうえで推進していきます。
32	第4章	荒廃農地の管理について、芝焼きは鳥獣被害対策にもなり有効ではないかと思えます。地域の合意形成を図り対策をしていく必要があると思えます。	C	小規模な「野焼き」であれば届け出をすれば可能ですが、周辺住環境との問題から難しい側面もありますので、より効果的な荒廃地対策について検討していきます。
33	第4章	農福連携について、制度に対する農業者の理解が重要であると思えます。計画に記載するのであれば、ただ単純に労働力不足の解消として見るのではなく、制度の趣旨を理解してもらえるように進めてほしい。	C	先進事例を参考に事業実施における留意点等を整理したうえで推進していきます。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
34	第4章	農商工連携との記載がありますが、実際には事例があまりないと思います。他にも多数の施策が掲載されていますが、中には実現が難しいものもあると思いますので、今一度精査し選択と集中をするべきだと思います。	C	農商工連携については、ブランド推進の中で商品開発をした事例があります。また、農業者と商業者個々の繋がりもあるため、その中で商品開発の支援等を検討していきます。
35	第4章	荒廃地が広がっていると感じるが、現状はどのようなか。	E	担い手不足から荒廃農地は増加傾向にあることから、担い手の確保・育成と連動した農地集積により、解消活動を実施しています。引き続き担い手への農地集積を図り荒廃地の解消に努めます。
36	第4章	鳥獣被害対策の成果があまり出ていないように感じる。以前から問題となっているため成果が出るようにしてほしい。	B	鳥獣被害対策については、被害軽減のための各種施策を実施していますが、被害が減ったという実感には至っていない現状にあります。 今回の計画改定において、鳥獣被害対策を基本施策に位置付け重点的に取り組むこととしており、また、今年度改定予定の鳥獣被害防止計画において、より効果的な取り組みができるよう作業を進めているところです。 鳥獣被害は農業者の意欲減退による荒廃地の増加等様々な悪影響を与えることから、関係機関と連携し被害軽減を実感できるよう対策を講じていきます。
37	第4章	鳥獣被害と特産物に関連しますが、獣が食べないものを作るという考え方や人間も食べられなくてもハーブ等として利用できるものを作るという考え方もあると思います。手軽にでき、かつ、たばこや落花生のように長期的に作られるものの研究を進めていただきたいと思います。	C	他市、他県等の事例を参考にしながら、本市での生産に適した作物の研究を進めて参ります。
38	第4章	学校給食について、例えばコマツナは作りやすく栄養価が高いですが収益性が低くなっています。中学校給食でも大きなウエイトを占めることになると思いますが、農家の収益も大事になるので、農家の喜ぶ作物の研究も進めてもらいたいと思います。	C	

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
39	第4章	ICTの活用などについてもっと計画内で記載してはどうか。 現段階ではドローンくらいしか記載がない。	C	国ではスマート農業の推進を掲げていますが、まだ開発業者への支援に留まっている状況にあることから具体的な表記はしていません。
40	第5章	中学校給食で地場産物の使用率50%を目指すのはもちろん素晴らしいことだと思いますが、地域の特色を出していくことも大事だと思います。例えばエゴマや葉ニンニクといったものを使うなど特色のある給食にしてもらいたいと思います。	C	学校給食は安定的な販路の一つであり、供給率を高めるとい点からも、特産・振興作物の学校給食への活用について、関係機関、関係部局と調整していきます。
41	第5章	新規就農者に対する支援を実施しているとのことだが成功例をあまり聞いたことがないため、一定の収入を得られるよう引き続き支援を行っていただきたい。	C	新規就農者に対しては、国の支援制度を活用した就農直後の財政支援や技術面でのサポートを実施しています。 今後も、関係機関と連携し、収益向上に繋がるよう支援をしていきます。
42	第5章	新規就農者について、毎年5人を目標としていますが倍の10人は必要だと思います。予算は限られていますので関係課と連携した空き家の斡旋や農業用機械のシェア、レンタル制度の周知など参入しやすい環境づくりをしてほしいと思います。	C	新規就農者の目標値は、近年の実績等を踏まえて設定しています。 引き続き、はだの市民農業塾を中心に新規就農者の確保に努めるとともに、新規就農にあたって課題となる機械や作業場等の確保については、関係機関と連携し支援していきます。
43	第5章	学校給食の指標でカロリーベース(食料自給率)などでは示せないのか。	D	カロリーベースは生産量をもとに算出しますが、国が生産量の統計調査をやめてしまっているため把握ができない状況となっていることから独自の算出方法をしておりません。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
44	第5章	鳥獣被害対策について、P54でこれまでの取り組みを記載してはどうか。	A	ご意見のとおりP54に次のようにこれまでの取り組みを追記します。 「これまで地域による電気柵、防護ネットの設置等「自衛」対策を中心としていましたが、依然被害は深刻化しています。」
45	第5章	学校給食の地場産率の算出方法がわかりにくいのではないかと。	E	前計画までは重量ベースで地場産率を算出していたため、例えばじゃがいもなど重量の重いものを多く使えば地場産率が上がる仕組みとなっていました。しかしそれでは葉物など栄養はあるのに重量が軽い食材をいくら使っても実績に結び付きにくい状況であったため、品目ごとに地場産物を使用した割合から算出する方法に見直しを行ったものです。
46	その他全般	略称や字体、表記等に統一性がないため修正してほしい。	A	いただいた御意見のとおり修正しました。
47	その他全般	今後農業は室内でやる時代が来ると考えています。施設化への支援を検討いただきたい。	C	施設化は経営の安定化につながることから、検討して参ります。
48	その他全般	市内の畜産農家が減ってきているが、畜産農家の作る堆肥は耕種農家の土づくりにおいて重要であるため、連携を推進してほしい。	C	国は2050年までに全国の農地の25%で有機農業を実施すると発表しており、今後全国的に堆肥の使用の増加が予想されます。そうした状況を踏まえ、新規就農者組織が実施する圃場整備に対する支援について、これまで肥料と堆肥のどちらにも使えた補助を令和3年度からは堆肥に限定するなど、試験的ではありますが堆肥の使用促進を図る予定です。 引き続き国の動向に注意しながら、対応して参ります。

秦野市都市農業振興計画（案）に対するパブリック・コメントに寄せられた市民及び市議会議員からの御意見・提案等

No.	都市農業振興計画案該当箇所	御意見・提案等の概要	区分	御意見等に対する考え方
49	その他全般	鳥獣被害対策について、どういった補助制度があるのか。	E	鳥獣被害対策への支援としては、電気柵の設置やヤマビル忌避剤の購入、草狩りをする道具の購入に対する財政支援等を行っています。
50	その他全般	新規就農者の多くは約4反ほどの面積を耕作しており、1人でそれだけの面積を耕作するのは負担が大きい中、補助メニューでは複数名の利用が要件とされており機械の導入が難しくなっている。 支援の拡充をしていただきたい。	C	これまでの補助メニューでは個人の財産形成に対する補助は公益性の観点から難しいとされており、複数名での利用が要件となっていました。しかし近年では国の支援制度において、対象を地域の中心的経営体、個人とするなど選択と集中というも考え方もありますので、そのような情勢も踏まえ支援策を検討して参ります。
51	その他全般	この計画では「儲かる」ということに触れていないが、儲からないと今後生産者は増えていきません。 少量多品目という聞こえはいいが、言い換えれば特徴がないということでもある。 攻める農業を考える必要があるのではないか。	C	都心へのアクセスを生かした流通や地元の飲食店との連携など付加価値の向上により「儲かる農業」を確立できるよう先進事例等も参考に研究して参ります。 また、少量多品目栽培については、産地化された作物に比べ価格の急落によるリスクを軽減することが可能です。 農業を持続可能なものとするためにも少量多品目、産地化のメリット、デメリットを踏まえ検討して参ります。